

# 令和3年度病害虫発生予報第11号

令和4年3月1日  
山梨県病害虫防除所

## 今月の天気予報

2月24日気象庁発表、1か月予報による関東甲信地方の向こう1か月（予報期間2月26日～3月25日）の天気は次のとおりです。

寒気の影響を受けにくいとため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。

## I 各作物の病害虫発生予報

### 【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
ブドウ	黒とう病	やや早い	やや多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年の収穫期の調査（シャインマスカット）では、新梢（副梢を含む）の発病は場率がやや高く、園によっては病原菌の越冬密度が高いとみられる。</li> <li>○本病は、病原菌が活動する好適温度がやや低いため、早春から菌が動き出す。3月以降の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の見込みであり、分生胞子の形成と飛散時期も早くなるとみられる。</li> <li>□病斑は、約2年は菌を放出するので、病斑が見られる結果母枝や巻きヒゲ等は伝染源となるため丁寧に除去する。</li> <li>□耕種的防除と併せ、休眠期防除を実施する。特に発生が多いシャインマスカットや欧州系品種では、必ず発芽前までにデランフロアブルを散布する。</li> <li>□その後、展葉初期にはチオノックフロアブルを散布する。</li> </ul>
	晩腐病	—	やや多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前年の発生量がやや多く、結果母枝等への越冬病原菌が多いとみられる。</li> <li>□耕種的防除として、越冬病原菌の密度を下げるため果梗の切り残しや巻きひげなどの除去を徹底する。</li> <li>□耕種的防除と併せ発芽前までにベンレートT水和剤20、ベンレート水和剤又はデランフロアブルを散布する。また、これらに代えてトップジンMペーストを塗布しても良い。</li> <li>□例年、発生が多いほ場では簡易雨よけハウスの導入を検討する。</li> <li>□ブドウ晩腐病防除マニュアル（令和3年12月発行）を参考に防除を徹底する。</li> </ul>
モモ	せん孔細菌病	やや早い	平年並	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨秋の調査における発病葉率は、一昨年より低かったが、調査園のほとんどで発病葉を確認しており、病原細菌が潜伏越冬しているとみられる。</li> <li>○3月以降の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の見込みであり、生育が前進すると病原細菌の活動も早くなるとみられる。</li> <li>□開花直前（花弁が見え始める頃）にICボルドー412または4-12式ボルドー液を散布する。住宅隣接園ではムッシュボルドーDFを用いる。</li> <li>□蕾が膨らむ頃から枝枯れ、芽枯れが確認できるようになりこのような枝は本病に感染している恐れがあるので、見つけ次第取り除く。</li> <li>□モモせん孔細菌病防除マニュアル（令和3年12月発行）を参考に防除を徹底する。</li> </ul>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

**【果 樹】**

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
スモモ	アブラムシ類	やや早い	平年並	○3月以降の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の見込みである。生育(展葉)に伴いアブラムシ類が寄生するとみられる。 □生育進度に応じ、開花直前(発生初期)の防除を実施する。
施設ブドウ	灰色かび病	平年並	平年並	○3月以降の気温は平年並か高く、降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みである。 □ハウス内は湿気がこもりやすく、開花期が天候不順の場合には発病しやすいため、特に注意する。 □開花時期から、ビニールマルチの敷設と換気に努める。また、多湿時は暖房機および循環扇を稼働させ、湿度の低下を図る。 □開花前の薬剤防除と花かす除去を徹底する。発病花穂・果房は見つけ次第取り除く。

**【野 菜】**

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
半促成トマト	コナジラミ類 (カコナジラミ オンシツコナジラミ)	—	並 (例年比)	○2月下旬現在、黄色粘着トラップほ場(中央市)ではコナジラミ類はほぼ誘殺されていない。 ○2月下旬現在、巡回ほ場ではほぼ発生が見られていない。 ○向こう1か月の気温は平年並か高い見込みである。 □ウイルス病を媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、施設開口部(天窗、側窓、換気扇口等)はすべて0.4mm目以下の防虫ネットで被覆する。出入り口は二重カーテンにするなどして侵入を防止し、ネットの隙間や経年劣化の穴がないかなど、施設の点検を励行する。 □黄色粘着板が苗の成長点付近にくるように設置し、コナジラミ類の誘殺状況を確認し、発生初期の防除を徹底する。 □同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 □ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れてコナジラミ類を死滅させ、枯らしてから施設外に持ち出し適切に処分する。 □施設内外の雑草は、コナジラミ類の増殖源となるため、除草を徹底する。 □タバココナジラミがウイルスを媒介することにより発病するトマト黄化葉巻病の防除対策については、Ⅱ各病害虫対策の項を参照する。
	葉かび病	—	平年並	○2月下旬現在、巡回ほ場における発生は見られていない。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行い、施設内の湿度低下に努める。 □多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。 □発病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に持ち出し処分する。 □葉かび病抵抗性品種でも発病する葉かび菌が発生しているため、症状が出ていないか注意する。 □すすかび病と似ており、判断が難しい場合には、防除薬剤は両方に登録のある薬剤を使用する。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
半促成トマト	すすかび病	—	並 (前年比)	○2月下旬現在、巡回ほ場における発生は見られていない。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □施設内が多湿にならないように過度な灌水は控え、換気を行い、施設内の湿度低下に努める。 □多発生すると防除が困難なため、早期発見に努め、初期防除を徹底する。 □発病した葉は伝染源となるため、除去して施設外に持ち出し処分する。 □葉かび病と似ており、判断が難しい場合には、防除薬剤は両方に登録のある薬剤を使用する。
	灰色かび病	—	平年並	○2月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □施設内が低温、多湿にならないよう、適度な換気を行い、過度な灌水は控える。また、多湿時は暖房機および循環扇を稼働させ、湿度の低下を図る。 □早期発見に努め、発病した葉・花卉・果実は除去して施設外に持ち出し処分する。 □前年多発した施設では発生に注意し予防散布に努める。
半促成キュウリ	うどんこ病	—	平年並	○2月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □早期発見に努め、発病した茎葉・果実は除去して施設外に出し、処分する。 □多発すると防除が難しくなるため、予防防除に重点を置く □同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
	アブラムシ類	並 (前年比)	並 (前年比)	○2月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、平年並か高い見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。
	ハダニ類	並 (前年比)	並 (前年比)	○2月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の気温は、平年並か高い見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。 □葉の裏に多く寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	○2月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。 □早期発見に努め、発病した茎葉・果実は除去して施設外に持ち出し、処分する。 □発生初期の防除を徹底する。 □同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

## 【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
イチゴ	ハダニ類	—	平年並	<p>○2月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の気温は、平年並みか高い見込みである。</p> <p>□例年、気温上昇に伴い3月以降に発生量が増加する。</p> <p>□発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□下葉の裏に多く寄生するため、生育に影響のない範囲で下葉を除去した後、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。</p> <p>□薬剤によってはミツバチへの影響があるので、薬剤の選択には注意する。</p> <p>□薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p> <p>□特にナミハダニは薬剤抵抗性が発達しやすく、県内でも薬剤の効果が低下している事例があるため、防除薬剤については総合農業技術センター平成29年度成果情報「ナミハダニの薬剤に対する感受性」(<a href="https://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/h29seikajouhou.html">https://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/h29seikajouhou.html</a>)を参考に防除をする。</p>

## 【野菜・花き全般】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
灰色かび病 (越冬・半促成トマト・半促成キュウリ・冬春イチゴ等)	—	平年並	<p>○2月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□施設内が多湿にならないように、過度な灌水は控え、低温に注意しながら換気を行い、施設内を適度な湿度に保つ。また、多湿時は暖房機および循環扇を稼働させ、湿度の低下を図る。</p> <p>□早期発見に努め、発病した茎葉、花、果実は除去して施設外に持ち出し、処分する。</p> <p>□前年多発したほ場では発生に注意し、予防散布に努める。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う</p>
うどんこ病 (半促成トマト・半促成キュウリ等)	—	平年並	<p>○2月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1か月の降水量は多い見込みである。</p> <p>□早期発見に努め、発病した茎葉、花、果実は除去して施設外に持ち出し、処分する。</p> <p>□発生初期の防除に重点を置く。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

## II 各病害虫対策

### 【ブドウ 越冬害虫の防除対策】

カイガラムシ類対策として粗皮はぎを徹底する。なお、石灰硫黄合剤はサビダニ類の越冬虫にも効果が高いので、発生が見られる園で散布が出来るほ場では使用する。

なお、石灰硫黄合剤の散布が出来ない地域では、ブドウハモグリダニ対策として、展葉初期にコテツフロアブル2000倍（50cc）を散布する。

### 【キウイフルーツ かいよう病対策】

かいよう病は休眠期防除が重要なため、発芽前までに、カスミンボルドー500倍又はカッパーシン水和剤500倍、ICボルドー66D50倍のいずれかを2～3回散布する。

### 【半促成栽培におけるトマト黄化葉巻病・トマト黄化病の防除対策】

#### 生育期

- (1) 施設内に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生状況を定期的に確認して、発生初期の防除を徹底する。
- (2) コナジラミ類の成虫は、生育初期～中期にはトマトの低い位置で寄生し、幼虫は葉裏に多いため、薬剤散布の際は低い位置から葉裏に十分薬液がかかるよう丁寧に行う。
- (3) 薬剤効果の低下が認められるタバココナジラミ（バイオタイプQ）が広く存在するため、薬剤選択に注意する。なお、同一系統薬剤の連用は、薬剤効果の低下につながるため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を実施する。
- (4) 発病株を発見したらすぐに抜き取り、直ちに防除を行う。
- (5) 抜き取った株や芽かきした茎葉は、ビニール袋に入れて枯死させてから持ち出す。
- (6) 施設内外の雑草や野良生えトマトはコナジラミ類の増殖源となるため、除去する。

詳細については「**トマト黄化葉巻病（半促成栽培版）**」の防除対策

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/>を参考にする。

### 【稲 種子伝染性病害対策】

種子伝染性病害では、主にいもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病などがある。以下の点に注意し、は種前の防除を徹底する。

- (1) 発病ほ場の籾は、種子として使用しない。
- (2) 塩水選を行い、り病籾を選別し、取り除く。
- (3) 薬剤による種籾の消毒は同時防除を徹底する。  
いもち病、もみ枯細菌病、ばか苗病の同時防除を行う場合は、次のいずれかの方法で行う。
  - ① 乾燥籾を薬剤（スポルタックスターナSE200倍又はテクリードCフロアブル200倍）に24時間浸漬する。
  - ② 乾燥籾を薬剤（上記薬剤の各20倍液）に10分間浸漬する。  
なお、防除効果を高めるため、薬液の温度は15℃以下にならないようにする。
- (4) 他の種子消毒薬剤および温湯処理による種子消毒法については県病害虫防除基準による。

防除薬剤は県病害虫防除基準・農薬適正使用指針による。

ただし、他作物が隣接して栽培されている場合は、農業協同組合が作成した代替薬剤の防除暦等を参考に、薬剤の選択を行う。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>



## IV その他

### 【農薬は正しく使いましょう】

農薬を使用するときは次の事項に注意して下さい。

- (1) 毒物又は劇物に該当する農薬だけでなく、すべての農薬について、安全な場所に施錠して保管するなど、保管管理には十分注意する。
- (2) 農薬の調製又は散布を行うときは、ゴム手袋、マスク等の防護装備を着用し、取り扱いを慎重に行う。
- (3) 農薬散布をするときは、事前に関係者に連絡し、関係のない者が近づかないように気をつけるとともに、隣接住宅等に被害を及ぼさないよう風向き等に十分注意する。
- (4) 水田において農薬を使用するときは、止水に関する注意事項を遵守し、河川の汚染の防止等、環境の保全に努める。
- (5) 使用残りの調製液や散布機具を洗浄した水の、河川や水路等への直接排水は極力避ける。
- (6) 農薬の空容器、空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等、適切に行う。
  - ・農薬使用者自身で、許可を受けた廃棄物業者に処理を委託する。
  - ・JA等、地域共同で適正に回収処分する体制が確立しているところでは、当該システムにより処分する。

### 【防除機具の貸出について】

病虫害防除所は市町村、農協等に対して、防除機具一式の貸出を行っています。

貸出に際しては事前に申請が必要のため、予め電話でお問い合わせください。

(県有防除機具の貸付：

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/49725861010.html> 参照)

#### 連 絡 先

山梨県病虫害防除所（山梨県総合農業技術センター調査部）

TEL 0551-28-2941

Eメール byogaichu@pref.yamanashi.lg.jp

#### インターネット

山梨県病虫害防除所ホームページ

予報対象作物を中心に「トラップ調査結果」「病虫害写真」等を掲載しています。

アドレス <https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/>

山梨県農薬適正サポートシステム

山梨県病虫害防除基準・農薬適正使用指針に掲載された農薬の最新登録内容を確認できます。

アドレス <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>